

平成11年7月2日
原子力安全対策課
(11-47)
<18時記者発表>

新型転換炉ふげん発電所の重水精製装置Ⅱ エリアモニタ等の上昇について

このことについて、核燃料サイクル開発機構から下記のとおり連絡を受けた。

記

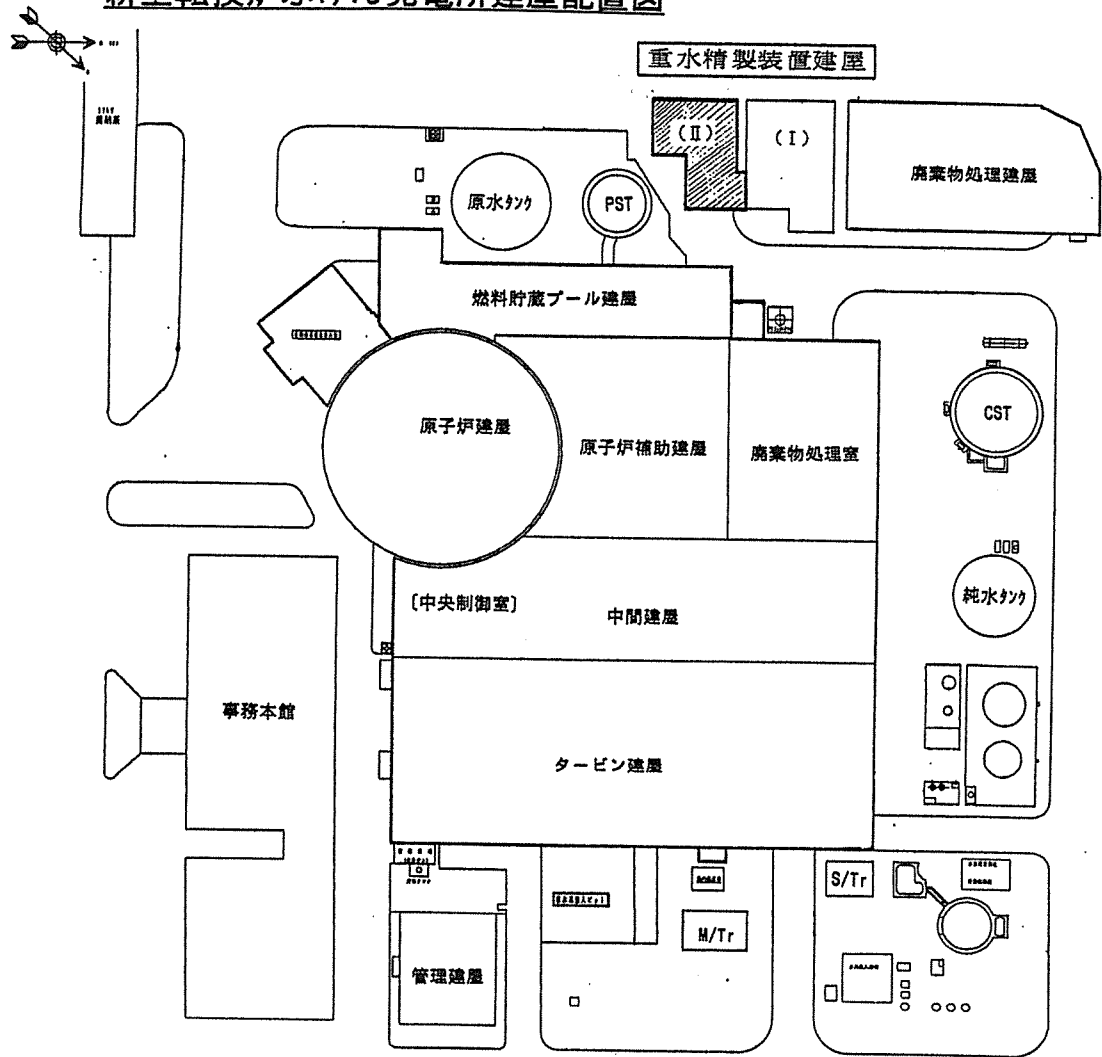
新型転換炉ふげん発電所（新型転換炉；定格出力16.5万kW，第15回定期検査中）では、本日、運転員のパトロール中に、重水精製装置Ⅱの循環フィルタ付近から重水が漏れていることを確認したため、15時15分に同装置の運転を停止するとともに、15時45分に循環フィルタの前後弁を閉止し漏えい箇所の隔離を行い、16時45分に漏えい停止を確認した。

これに伴い、重水精製装置Ⅱのエリアモニタが上昇し、15時44分に高高警報が発信した。重水精製装置建屋スタックモニタについては、高警報値を下回っているが、引き続き監視を行っている。

（参考）

	重水精製装置Ⅱエリアモニタ	重水精製装置建屋スタックモニタ
高警報 高高警報	$3.7 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$ $1.1 \times 10^{-1} \text{ Bq/cm}^3$	$3.7 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$ $1.1 \times 10^{-1} \text{ Bq/cm}^3$
17:25現在の 指示値	$3.98 \times 10^0 \text{ Bq/cm}^3$	$1.59 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$

新型転換炉ふげん発電所建屋配置図



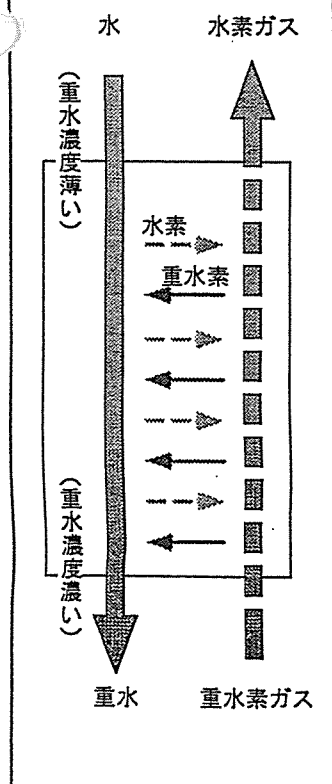
設備概要

重水精製装置の目的

ふげん発電所の定期検査作業時等で発生する「濃度の薄くなった重水」（重水濃度が約30～95wt%のもので、劣化重水という）を「濃度の高い重水」（重水濃度99.8wt%以上のもので、製品重水という）に濃縮し原子炉で減速材として再使用する。

なお、重水中には重水素以外に、原子炉内で重水素の中性子吸収等によって生成される放射性物質であるトリチウム（三重水素）が含まれる。

〔交換反応塔概念図〕



〔重水精製装置Ⅱ系統概略図〕

